

目 次

原子力施設の立地と地域振興  
に係る基本的考え方（私見）

1. 原子力施設の立地と影響変化	1
1) 影響評価の捉え方	
2) 地域振興計画論的視座	
2. 「地域が振興」している証とは	2
1) 変わる農山漁村の価値観	
2) 「地域が振興している」という証をどう捉えるか	
3. 原子力施設の所在する「地域振興」の実態	4
1) 地域変容形成過程分析－事例3題	
2) 要因分析結果	
4. 原子力施設の立地「地域振興」に結びつけるために	9
1) 相当な新增設が必要－総合エネルギー調査会・原子力部会	
2) 「地域振興」に結びつけるために	

平成22年4月20日

(株)開発計画研究所

代表取締役所長 石井 政雄

# 1. 原子力施設の立地と影響変化

## 1) 影響評価の捉え方

- 原子力施設など大規模な地域社会の変容（これを変容特性という）は、施設の投資規模、内容にまず依存するが（これを投資特性という）、その具体的な現れ方は、地域の地理的条件や開発の意欲：主体的な働きかけなど（これを地域特性という）によって多様な態様を示す（右図参照）。
- 施設投資に伴って生ずる効用については、他に格別の政策的手段を加えなくても、その投資から必然的に生ずると考えられる「必然的効用」と、他から何らかの政策手段が加えられたり、関係者や住民側の主体的な働きかけによる内発的効用に区分できる。これは「必然的効用」を増幅することとなり地域振興を図る立場からは重要なポイントとなる。
- 特に右図の投資・地域特性に示す④、⑤の項目が、この内発的効用に関与すると考えられるものであり、かかる意味で特段に配慮を要する項目といえる。

## 2) 地域振興計画論的視座

- 先の影響評価の捉え方に示す特性として、開発を進める側からの態様（投資特性）で言えば、下記の特性をもつ。
  - 地域への投入の総量は極めて大きい。
  - その期間も建設段階以降では、20 数年は続く。
  - しかし、その初期、建設、操業などのステージによるズレが大きく、その内容、質がそれぞれ異なる。
- 従って、これをできるだけ平滑にし、それぞれの影響を、その後の地域の振興・成長につなげていくという立地を受け入れ側の努力（地域特性）が有効に働かないと、見かけ倒しどころか結果的にはかえってリスクを増大させる可能性も考えられる。
- 換言すれば、地域の側の主体的かつ計画的な働きかけによって、初めて外発的効用が地域の実態にしみ通るような形で増殖的に展開されてゆくことになる。これにはかなりの年月をかけた対応が必要とされるだけに、中長期的な波及展開の筋立てを見据えた対応が必要となる。
- これを地域計画論的視座から言えば、原子力施設の立地にあたっては、他にはないほどの激動の時期をもつだけに、地域社会の中長期にわたる成長過程を見据え、如何に、その効用を着実に積み上げていくかという視点の確立がとわれてくる。（右図参照）

図-1 発電所立地の影響変化の捉え方

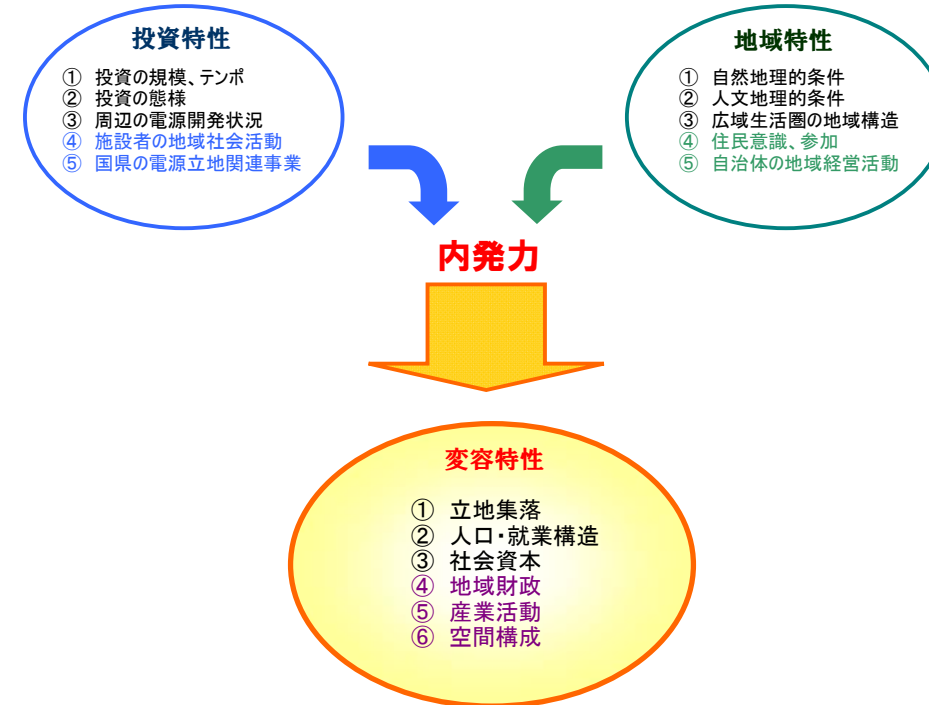
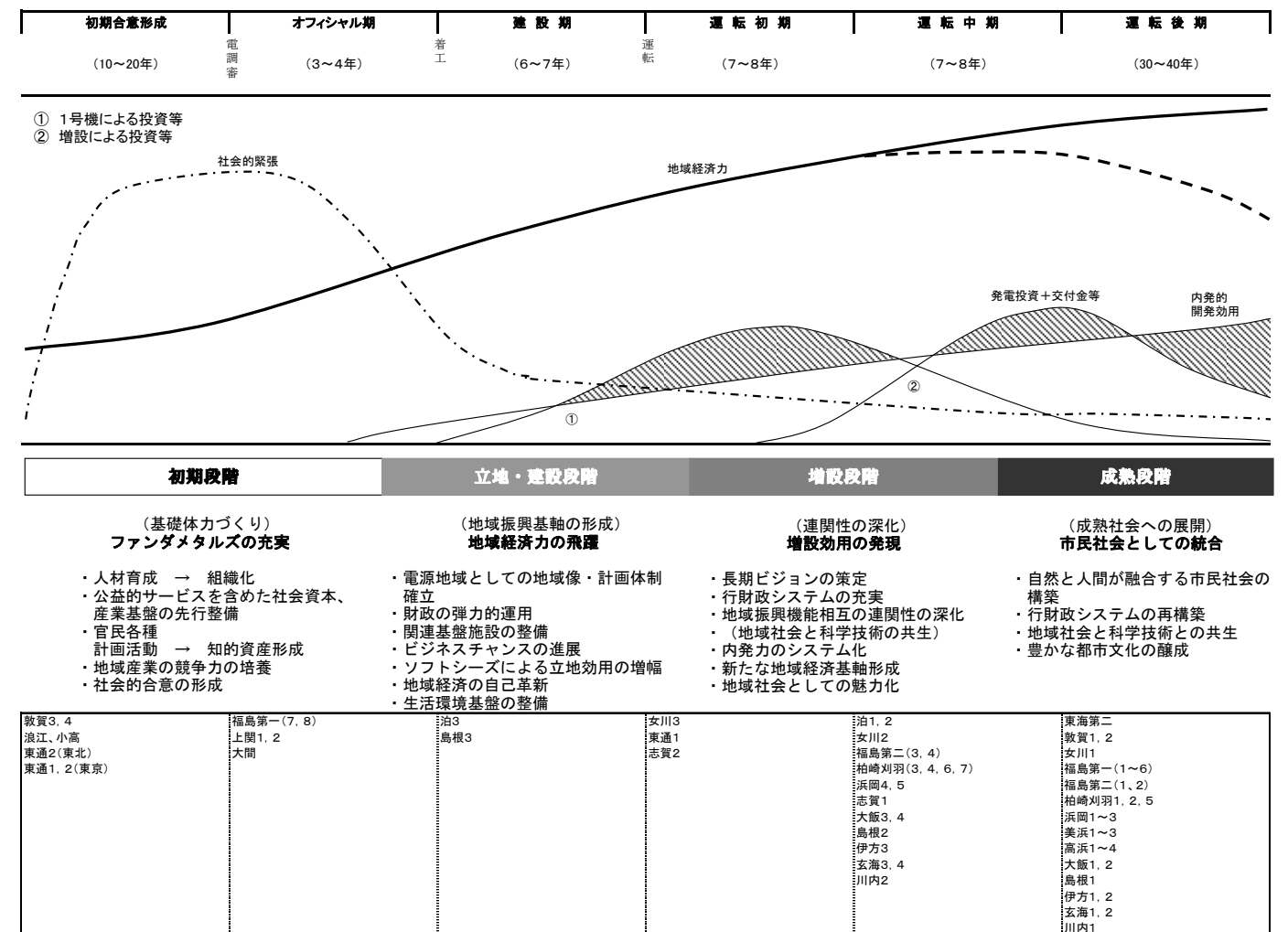


図-2 電源立地振興計画の段階別計画目標と地域経営力の推移概念図



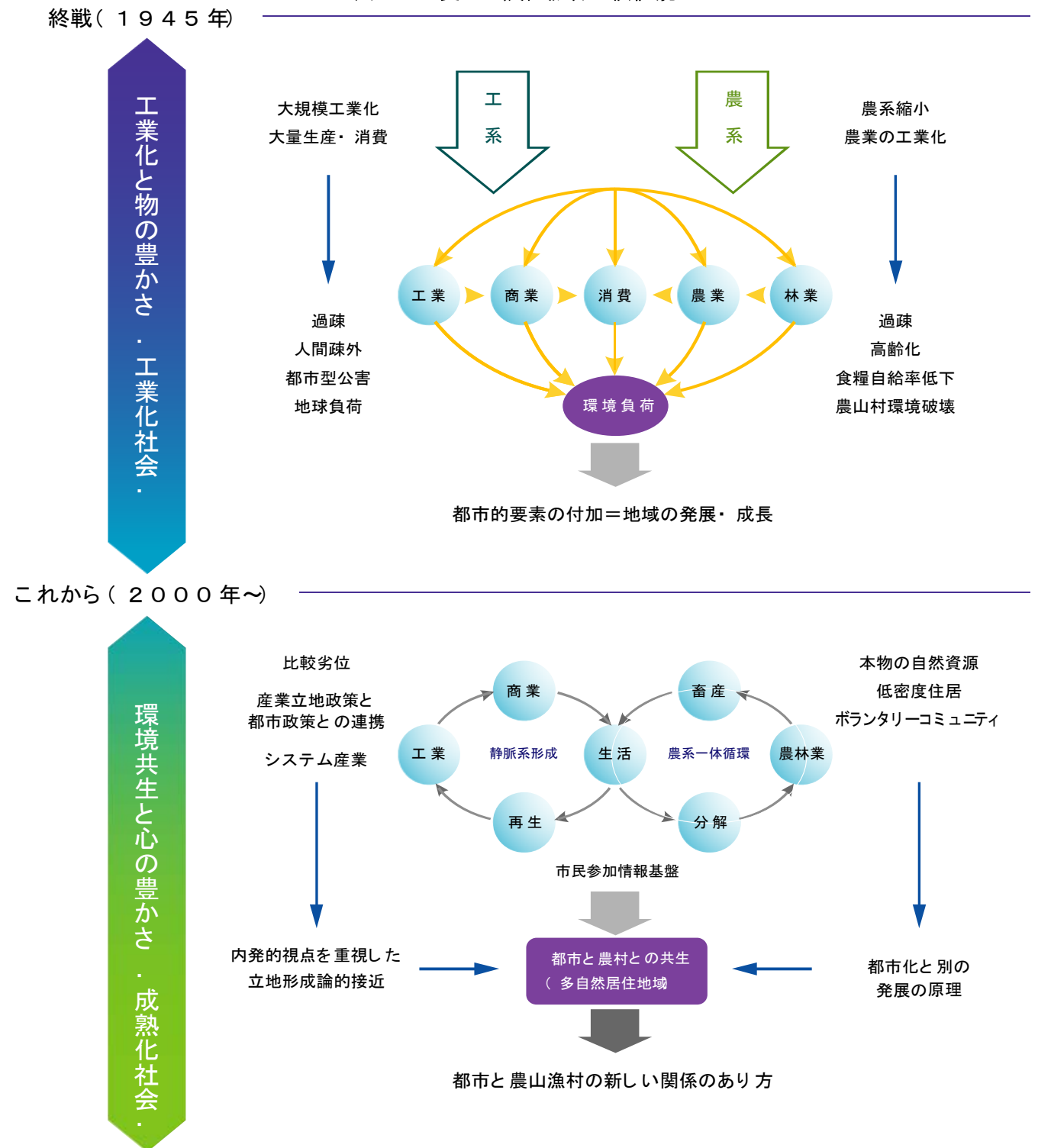
出典：「電源立地制度の概要」(平成19年3月 資源エネルギー庁)を基に作成

## 2. 「地域が振興」している証とは

### 1) 変わる農山漁村の価値観

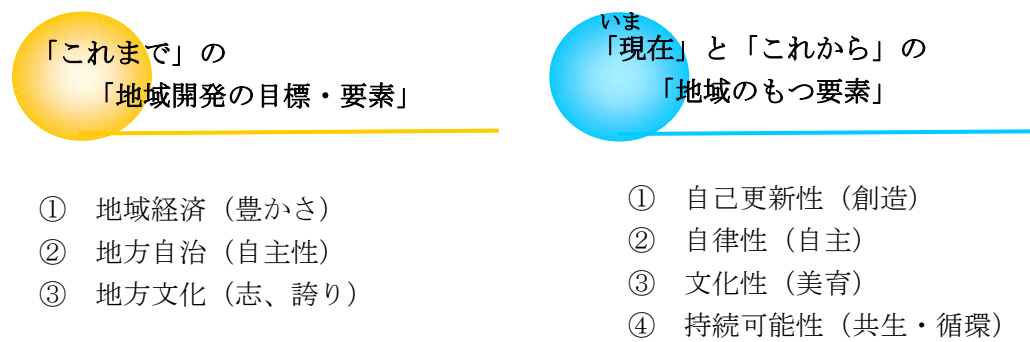
- 今、地方圏にある農山漁村に対するこれまでの価値観、社会とは異なった思想が潮流としてうねりを持ち始めている。
- わが国の原子力発電所の多くは、人口の粗な農山漁村地域のなかにあっても中心的集落からはかなり隔たった地点が選ばれていた（海岸平野・台地立地型発電所、半島地形峡湾立地型発電所に大きく区分される）。
- そこでの振興の目標は地域の発展・成長＝人口増。さらに、農山漁村の居住者は、そこに都市的要素が付加されることを進歩・発展として捉えてきた。この考えの根底には都市の方が経済的に豊かで、農山漁村は遅れているという捉え方に支配されていた。今、この価値観が大きく変質しつつある。
- このような価値観の変質の根源は、戦後 50 年の経済復興の歴史、特にそのなかでも経済が急激に変化したこの四半世紀の歴史にあると言える。この結果、農山漁村の荒廃、過疎化、高齢化、都市の過密による生活環境の悪化などの社会病理であり、人、物、金の集中化の反作用として起こるべくして起こった。
- さらに、その後の集中化の進展は先の社会病理に加えて大量生産・大量廃棄などにより資源浪費と環境負荷が発生し、開発による環境破壊が発生した。このような思想の線上に過疎問題に代表される農山漁村の地域社会の転換方向として、上記したとき都市化とは別の原理で新たな方向性をみいだせるのではないかという潮流が強くなりつつあると言える。
- 増設・成熟段階あるいは「壮年期・リプレース」の時期にある原子力発電所立地地域が、このような価値観の変化を如何に自らの地域に賦存する多彩な材料を原子力発電所自体も含め「資源化」するかが今、厳しく問われている。

図-3 変わる農山漁村の価値観



## 2) 「地域が振興している」という証をどう捉えるか

- これまで一般的にはそれを「もの」、「かね」がより豊になることと見なし、例えばSDモデルなど地域産業連関分析をベースとした接近などがなされてきている。
- しかし、地域が「振興」しているということは、「地域経済」が成長し、豊かになるというよりは、地域に住まう住民、企業が成長に向かい将来に希望をもつような状況（レベル+ベクトル）と云ってよく、かかる社会的効用を見逃しやすい。「地域」は生きものである。
- J. Jacobsj 等「発展はできあがった事物の集積ではなく、むしろ事物を生み出す過程である。」  
「価値の流れは顧客からの引力によって初めて発生する。下流からの要求がない限り、上流では本来何も生産されない。」
- これからは地域（社会）が振興していることの証は、地域の住民の立場、視点に立って総体的動的に捉えるべきものであつて、上流（サプライサイド）での増分そのものが効用と考えることに問題を提起している。ダイヤモンドサイドの重要性。
- これまでの地域開発・地域振興のもつ要素



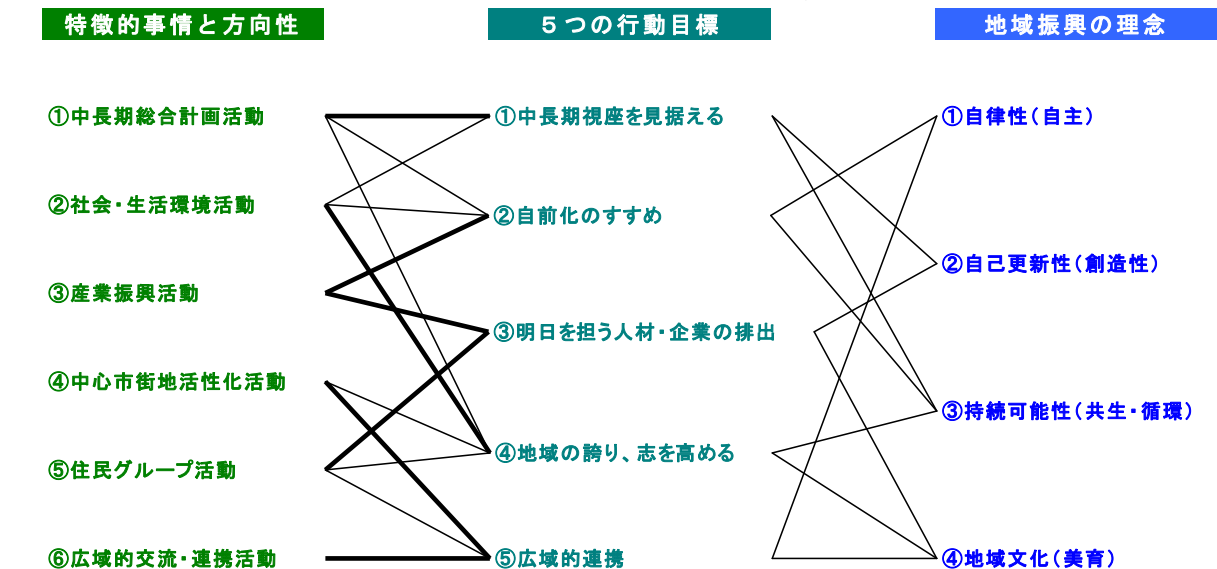
■ 仮に上記の右辺を仮説しておくとするれば、下記の左の項と右の項とはやや交差した相関もでてくるが、敢えて直裁な関係表現に止めて示すと次の如くなる。

キャッチフレーズ	キーワード
X：自己更新性	多様性、集積構造、人づくり、ネットワークキング
Y：自律性	(中長期な)計画活動、民主的体制、地方文化
Z：持続可能性	環境保全、自然共生、NPO的市民活動

■ 前項右辺を念頭に「振興」実績を評価すべき6つの局面とそのポイント的事象

中長期総合計画活動	社会・生活環境の多彩化・高質化	産業の構造的な高次化、集積の深化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的時間軸にかかる戦略の定立</li> <li>・戦略的プロジェクトの体系化</li> <li>・電源立地施策等外発力の活用</li> <li>・民主導ベースの醸成</li> <li>・知的資産の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育活動の活性化</li> <li>・生活環境の高質化(施設の外部効率性)</li> <li>・地域情報システムの充実</li> <li>・地域・社会環境保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多参画型地域産業の展開</li> <li>・地域産業の基軸の定立</li> <li>・集積の構造的な高次化</li> <li>・自前の創業・振興支援体制の樹立</li> </ul>
中心市街地の活性化	多様な住民グループ活動の展開	広域的な交流・連携の展開
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中枢コアの定立</li> <li>・汎市街地域構造の接合</li> <li>・中心市街地の活性化・開発事業の推進</li> <li>・住民各層との協働化の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことづくり、産業興し支援などグループ結成機会の醸成</li> <li>・環境保全、自然共生社会活動の推進</li> <li>・各種住民グループ交流、ネットワーク化</li> <li>・まちづくり市民会議、地域シンクタンク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的組織などによる大都市機能とのネットワーク強化</li> <li>・広域的課題への取組(広域連合、特定産業の広域連携等)</li> <li>・広域的交流・連携の地域中枢拠点</li> </ul>

■ 地域振興にかかる特長的事象から行動目標、振興理念への脈絡



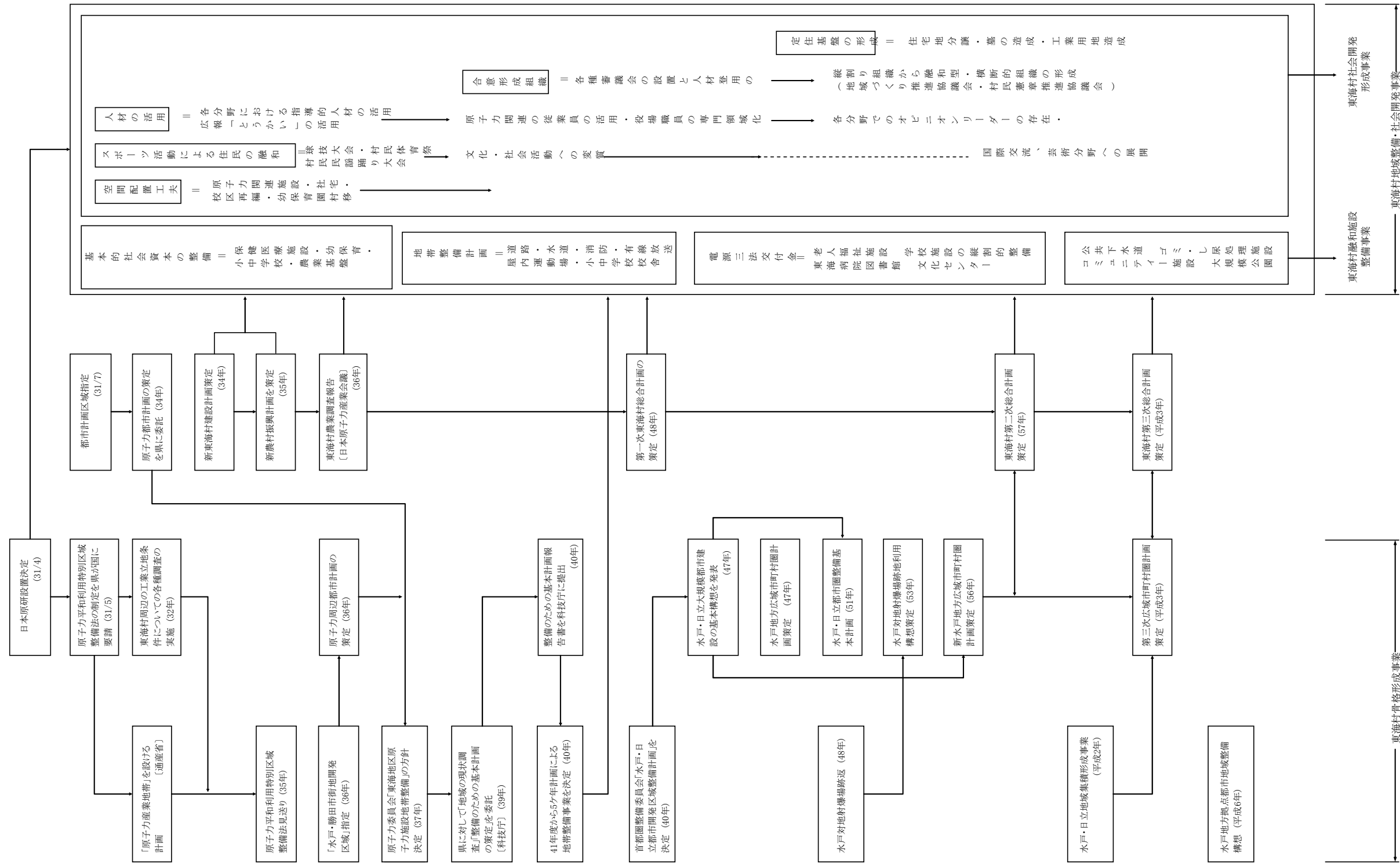
■ 「原子力施設の立地が地域にとって誇りとなり、地域資産の一つでもある」。という地域の自負や自信、信頼感を醸成できる環境づくりが重要

■ 「ものとかね」から「こととひと」の地域づくり思潮の変化は、これまで原子力施設という太い糸をたよりに地域づくりを実践してきたが、これからは後述する玄海町、東海村、美浜町等々に示された「こととひと」の糸を組み入れ、地域振興という織物が、幾層にもヨコ糸とタテ糸を編み上げていく時間をかけた格段の工程の収斂によって、地域好みのものに仕上げることが必要となる。また、かかる連関、有機化の過程そのものが地域振興の「生きざま」でもあると言える。

### 3. 原子力施設の所在する「地域振興」の実態

#### 1) 地域形成過程分析－事例3題

##### (1) 茨城県東海村（計画群の体系）



(2) 佐賀県玄海町 (地域変容過程)

	1955 S30	1960 S35	1965 S40	1970 S45	1975 S50	1980 S55	1985 S60	1990 H2	1995 H7	2000 H12	2005 H17
<b>1. 町政概況</b>	町長 宮崎専一 (1期)	松隈矩夫 (1期)	山崎節治 (2期) 久保佐太郎	寺田寅男 (2期)	日高一男 (3期)	鶴田留蔵 (2期)	寺田司 (2期)	岸本英雄			
人口	9,447	8,952	8,075	7,468	7,427	7,463	7,622	7,515	7,737	6,986	6,738
産業別就業人口 (%)	(1) 1次 (2) 2次 (3) 3次	(1) 76.5 (2) 8.8 (3) 14.7	(1) 72.7 (2) 9.3 (3) 18.0	(1) 64.5 (2) 15.4 (3) 20.1	(1) 53.5 (2) 22.3 (3) 24.1	(1) 45.5 (2) 25.6 (3) 28.9	(1) 38.0 (2) 27.8 (3) 34.3	(1) 32.0 (2) 32.7 (3) 35.3	(1) 25.6 (2) 38.1 (3) 36.3	(1) 25.7 (2) 30.3 (3) 44.0	
財政力指数			0.204	0.175	0.198	0.823	1.596	0.883	1.429	2.140	1.683
	56 値賀・有浦村合併により玄海町誕生 57 旧切木村4集落編入		65 市町村合併特例法	70 東西外津合併→外津地区 71 東西仮屋地区合併→仮屋地区	74 電源三法公布 74 原子力船むつ放射能もれ	79 米TMI原子炉事故	83 新庁舎完成 83 地域振興基金の設置	86 町民憲章	88 玄海町史(上巻)	97 玄海町史(下巻)	95 市町村合併特例法(3度目の延長、2005年期限) 99 JCO臨界事故
<b>2. 幹線交通基盤整備</b>				68 国鉄呼子線起工	70 県道呼子一伊万里線国道204号に編入 74 外津大橋完成	80 建設工事中断	83 JR筑肥線電化、福岡市営地下鉄乗り入れ	(87 国鉄民営化)	97 設備撤去方針	01 福岡都市高速道と西九州自動車道が直結	
<b>3. 電源開発</b>			65 県より原発建設計画	66 原発誘致議決(川内との誘致合戦) 68 用地売買契約締結	72 九電より2号機増設計画申入れ 70 漁業補償契約	76 2号機着工	78 九電より3・4号機増設計画申入れ	81 郷土の自然を守る会発足(増設反対住民) / 82 町長リコール運動→不成立 82 廃熱利用温室(地域農業の振興)	85 3・4号機着工	94 3号機運開	97 4号機運開
<b>4. 町計画活動</b>		59 町建設計画(～63)					84 総合計画策定 企画課新設	86 町総合計画(～95)		96 町新総合計画(～05)	06 第四次総合計画(～15)
		[安定計画]・行政組織・行政事務の合理化 ・生産基盤の整備 [発展計画]・産業振興 ・人的質の向上						・町発展への基礎的条件的整備 ・快適で安全な生活環境の創出 ・産業の振興 ・福祉の町づくり ・教育・文化の高揚 ・住民に密着した地域振興 ・計画的な行財政の推進		・地域産業の体質強化と基幹産業づくり ・新時代情報通信を活用した地域総合活性化計画の推進 ・地域資源の保全・活用と観光拠点開発の推進 ・中心市街地の再生整備と町の顔づくり ・生き生きとした人づくりと地域活性化の推進	・美しい自然とふれあう安全で快適なまちづくり ・安心して暮らせる人にやさしいまちづくり ・恵まれた資源を生かす活力育むまちづくり ・ふるさとを愛し文化のかおるまちづくり ・住民と共にあゆむ創意工夫のまちづくり
<b>5. 都市機能・生活・環境</b>		58 仮屋地区簡易水道			75 値賀地区簡易水道 75 町道整備開始	80 湯野尾地区簡易水道 81 町営住宅(新田第1) 82 町営住宅(新田第2) 83 地域防災計画	87 上水道事業開始 88 新田浄水場・貯水池 87 仮屋地区生活排水処理施設	91 町営住宅(新田第3) 93 町営住宅(平尾団地)		01 下水道整備事業開始 02 町営住宅 04 定住促進奨励金(シーラインウ)	03 藤ノダム完成 03 広域インターネット(玄海・呼子) 04 ネットフォーCATV放送開始 04 県立唐津青翔高校
情報基盤											
教育・文化			66 有浦小学校改築	71 値賀小学校改築	79 公民館値賀分館	83 値賀中学校改築		91 町民会館			
医療・福祉			67 有浦小学校牟形分校、牟形小学校として独立	74 県立東松浦高等学校 74 有浦中学校移転改築	80 福祉センター	81 特別養護老人ホーム「玄海園」(84 増築)		92 デイサービスセンター「玄海園」	94 老人保健福祉計画	00 あおば保育園(わかば園、みどり園統合)	03 ふたば保育園改築
体育・スポーツ				72 わかば保育園 73 ふたば保育園 74 みどり保育園				89 社会体育館	90 総合運動場	92 野球場	
その他								88 肥前畜場(玄海・肥前)			
<b>6. 産業振興</b>			65 農業構造改善事業開始(ミカン)	71 上場開発青年同志会	75 国営上場土地改良事業開始	80 県営上場土地改良事業開始	81 新農業構造改善事業開始 81 上場農協、ハウスいちご栽培開始				01 中山間地域等直接支払制度(耕作放棄地の保全)
農業			66 米づくり日本一連続達成 66 上場農協発足(上場4町農協合併)	73 上場地域農業開発事業組合							
水産業			70 仮屋漁業でタイ養殖試験	74 本格的事業展開	78 県栽培漁業センター(鎮西町)				92 「フレッシュ会」発足(仮屋漁協婦人部メンバー)	97 加工品販売	03 「うまか鯛」 経産大臣賞
商工業			67 外津漁港沿岸漁業構造改善事業開始	70 仮屋漁港沿岸漁業構造改善事業開始	73 玄海ソーイング進出				95 商業ビジョン	99 商業集積計画(ふれあいプラザ) (高度化事業)	02 ふるさと発想館 02 利用組合組織
観光・サービス									97 唐津市にジャスコ開店	99 観光物産協会設立	00 物産店「どっ来い承」 運営(独立採算) 00 利用組合組織
その他									93 むらおこし事業(3年間) → 特産品開発、観光開発		03 唐津・東松浦観光連盟 04 浜野浦棚田展望台完成 04 海上温泉「ハレア」→ 農水産業との連携
<b>7. 住民活動、イベント</b>			65 黒形炭鉱閉山						91～ まちづくり活性化促進事業	99 小加倉やってみよう会「子ども達の農村体験」	
									83～ ふるさと納涼花火大会	89 仮屋湾一週イカダマラソン大会	96～98 海の祭り
										00 玄海おじさんバンド「ふれあいコンサート」	07 「NHKのど自慢」 03 シーラインウ「地域おこし組織」 03 フランス共和国グラブリーヌ町と交流開始
<b>8. 関連性強化</b>				71 唐津・東松浦広域市町村圏組合発足、計画策定						99 介護保険事業開始	
					79 唐津・東松浦広域市町村圏組合清掃センター完成					94 唐津・東松浦合併懇談会 → 99 任意協議会 → 02 法定協議会 → 03 離脱	

(3) 福井県美浜町 (地域変容過程)

	1954	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	
	S29	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	
1 町政概況	町長 人口 54 綿田捨三(4) 55 14,778人	58 町章制定	62 原発誘致議決 62 役場庁舎落成	70 原田平吉(2)	74 電源三法 75 行政史発刊	78 平野巖(2)	85 第二次振興計画(～95) ◇ 人間尊重と環境保全を基本とし、 創造、交流、個性がキーワード	86 綿田光雄(4) 85 13,384人	92 役場新庁舎落成	99 ハートフル対話 治太やんBox 夢づくり懇話会	99 山口治太郎	07 山口治太郎(3選) 05 11,379人
1次/2次/3次(%)	55 66.2/12.0/21.8	59 伊勢湾台風	63 豪雪(154cm) 65 台風23号	65 51.0/19.8/29.2	75 33.1/25.0/41.9	85 15.8/29.2/55.0	86 第一次美浜町行政改革大綱	95 12,384人	96 第二次美浜町行政改革大綱	95 13.3/27.4/59.3	05 10.2/21.5/68.3	04 「福井大学と美浜町の相互 友好協力協定」締結 05 「へこしの町」を 商標登録 05 「三方五湖」ラムサール 条約に登録
2 町計画活動		58 美浜町建設計画(～66)	62 都市計画区域を 指定	70 美浜町振興計画(～78) ◇ 4つの柱(明るい、住みよい、豊かな、麗しい美浜) を中心に総合施策を推進			85 第二次振興計画(～95) ◇ 人間尊重と環境保全を基本とし、 創造、交流、個性がキーワード	86 第一次美浜町行政改革大綱	96 第二次美浜町行政改革大綱	96 第三次美浜町総合振興計画(～04) 「自然と共生するやすらぎのまち」	05 第四次美浜町総合振興計画 「自然かがやき人いきいき まちにぎわう美(うま)し美浜」	04 生涯学習のまち宣言 06 第三次美浜町行政改革大綱 大綱策定 07 美浜町環境基本計画策定
3 交通基盤整備		61 小浜線ディーゼル化 61 東美浜駅設置	63 林道:栗柄・河内谷線着工(～S49) 65 椿トンネル竣工 65 国道27号美浜地係竣工	67 美浜駅舎落成	77 町道坂尻太田線竣工 78 町道竹波縄間線改良工事着手 79 町道金安線竣工		90 坂尻トンネル開通 90 竹波縄間線開通 90 木野トンネル開通	93 国道27号金山バイパス 全線開通	96 近畿自動車道敦賀線小浜市 岡津～敦賀間概要ルート公表 98 ふるさと対策農村道路 「若狭梅街道」開通	03 JR小浜線電化開業	03 国道27号美浜東バイパス 一部開通	
4 電源開発				67 美浜1号→70 運開 68 美浜2号→72 運開	72 美浜1号放射能漏洩事故 72 運開 72 美浜3号→76 運開			91 美浜2号伝熱管破断 94 美浜1号放射能漏洩事故 95 もんじゅ事故		02 福井県美浜原子力 防災センター完成 04 美浜発電所3号機2次系配管破損事故 05 関西電力美浜原子力事業本部を本町に移転		
5 生産機能	54 商工会結成			69 3 農協が合併し美浜農協発足 72 県営灌漑事業着手(耳) 72 森林組合発足	74 美浜中部土地改良区設立 78 酪農団地竣工(佐柿、安江) 79 商工会館落成	83 公社畜産基地建設事業着手(雲谷) 83 農村総合整備モデル事業 (集落排水処理和田地区)より着手 83 漁業集落環境整備事業 (下水処理丹生地区)より着手		89 毛の鼻工業団地造成		01 集落営農組織 「松原生産組合」 発足	05 美浜町企業誘致条例制定 (企業誘致・雇用対策室設置)	
6 教育・文化・スポーツ	54 体育協会結成 54 弥美小、美浜南小落成	60 新庄小、菅浜小開校 61 耳中落成	63 菅浜小落成 63 美浜町文化会館	69 県立美方高校開校	75 4 中学統合し美浜中開校 79 美浜北小落成	84 美浜南小学校 87 菅浜小落成		89 毛の鼻工業団地造成		00 国吉城址史跡第一次試掘調査		
7 生活・福祉・医療	55 耳保育所落成 56 南西郷保育所落成	59 山東保育所落成	65 菅浜保育所開設 64 弥美幼稚園 65 矢管幼稚園	70 丹生保育所開設 71 菅浜保育所落成	74 山東保育所落成 76 耳保育所落成	83 早瀬保育所落成 82 日向保育所落成 83 矢管幼稚園	90 菅浜保育所落成 91 新庄保育所落成 93 丹生保育所落成 93 西保育所落成		90 公共下水道事業開始	01 美浜町デイサービス センター「ほほえみ」新築 02 大蔵地係で 温泉発掘 02 防災行政無線開局 03 レイクヒルズ美方 病院開院	07 町内9ヶ所の保育所を 4園に再編 04 町コミュニティバス運行開始 04～06年度防犯街路灯の整備 温泉発掘(明かりのまちづくり事業完了)	07 子育て支援センター
8 イベント・市民活動	55 青年団結成	62 婦人連絡協議会結成		68 第23回国体久々子湖にて開催(漕艇会場) 69 美浜町漕艇協会設立 69 第1回福井レガッタ開催 72 県立ボートハウス		75 美方清掃工場 75 中央公民館落成 77 町民プール開設 78 勤労者体育センター 78 社会福祉協議会発足	79 県立嶺南養護学校開校 81 身障者施設「はこべの家」開設 82 保健センター落成 84 文化会館、児童館落成	84 溪流の里	88 第一回町民レガッタ、ボートサミット開催 89 第一回美浜五木マラソン 89 第一回野外彫刻ビエンナーレ 91 東アジア漕艇国際大会 91 ハートフル朝市開催 92 第1回全国市町村交流レガッタ開催	03 夢ネットワーク 美浜設立 05 「若狭美浜はあとふる体験」 受入開始 07 第1回全国中学校 選抜ボート大会		
9 連関性強化			62 有線放送電話業務開始(耳地区) 63 有線放送電話業務開始(南西郷地区) 64 有線放送電話業務開始(山東地区、北西郷地区) 68 電話ダイヤル通話開通	72 地域集団電話開通				88 台湾石門國と姉妹都市提携 90 美浜中学校と台湾石門國民中学との ホームステイ事業		01 美方ケーブル ネットワーク開局		

2) 要因分析結果

検証 分野別相互関連と主要な展開モメントー玄海町

区分	発電所建設スケジュール	検証の視座						特徴
		中長期的総合計画活動	産業の構造的な高次化	社会・生活環境の多様化	多様な住民グループ活動の展開	中心市街地の活性化	広域的な交流・連携の展開	
昭和40年代	#1,S46年着工	<p>行政主導型計画活動 ・まちづくり</p> <p>活性化促進事業</p> <p>行政運営に対する不安</p> <p>計画策定システム改質</p> <p>住民参加型まちづくり</p> <p>計画行政の推進</p> <p>機構改革</p>	<p>九電地域共生活動</p> <p>地域産業設立支援・育成</p> <p>生産振興策の充実</p> <p>排熱利用温室</p> <p>優良農地造成</p> <p>玄海エネルギーパーク</p> <p>排熱利用温室拡充</p> <p>計画策定システム改質</p>	<p>基盤整備・生活再建</p> <p>経営形態改革(養殖)</p> <p>既存作目強化</p> <p>新規作目検討</p> <p>起業者出現(海の釣り堀)</p> <p>交流人口流入期待</p> <p>地域ブランド化(いちご、玉ねぎ、メロン、佐賀牛等)</p> <p>観光・交流によるまちづくり</p>	<p>生活、教育・文化環境施設整備</p> <p>ボランティア活動(清掃作業)</p> <p>施設開放</p> <p>社会開発計画の充実と所得機会の多様化による精神的ゆとり</p> <p>シビルミニマムの充足</p> <p>交流機能・情報基盤施設整備</p>	<p>ものづくりグループ支援</p> <p>組織主体形成</p> <p>拠点機能整備</p> <p>顔のみえるまちづくり・ものづくりグループ</p>	<p>商業集積整備に関する研究会・計画立案・建設準備会発足</p>	<p>①モノ、カネ中心のまちづくり</p> <p>②検証分野別具体化(深化)活動主体</p> <p>①“モノ、カネ”主体から“ヒト、コト”の活動へ(内発型まちづくりへ)</p> <p>②検証分野横断・連携型まちづくりへ</p>
昭和50年代	#1,S50年運開 #2,S51年着工		<p>排熱利用温室</p> <p>優良農地造成</p> <p>玄海エネルギーパーク</p> <p>排熱利用温室拡充</p>	<p>起業者出現(海の釣り堀)</p> <p>地域ブランド化(いちご、玉ねぎ、メロン、佐賀牛等)</p>	<p>ボランティア活動(清掃作業)</p> <p>施設開放</p> <p>社会開発計画の充実と所得機会の多様化による精神的ゆとり</p> <p>シビルミニマムの充足</p> <p>交流機能・情報基盤施設整備</p>	<p>ものづくりグループ支援</p> <p>組織主体形成</p> <p>拠点機能整備</p> <p>顔のみえるまちづくり・ものづくりグループ</p>	<p>商業集積整備に関する研究会・計画立案・建設準備会発足</p>	
昭和60年～平成6年	#3#4,S60年着工		<p>優良農地造成</p> <p>玄海エネルギーパーク</p> <p>排熱利用温室拡充</p>	<p>起業者出現(海の釣り堀)</p> <p>地域ブランド化(いちご、玉ねぎ、メロン、佐賀牛等)</p>	<p>シビルミニマムの充足</p> <p>交流機能・情報基盤施設整備</p>	<p>ものづくりグループ支援</p> <p>組織主体形成</p> <p>拠点機能整備</p> <p>顔のみえるまちづくり・ものづくりグループ</p>	<p>商業集積整備に関する研究会・計画立案・建設準備会発足</p>	
平成7年～平成16年	#3,H6年運開 #4,H9年運開		<p>行政運営に対する不安</p> <p>計画策定システム改質</p> <p>住民参加型まちづくり</p> <p>計画行政の推進</p> <p>機構改革</p>	<p>起業者出現(海の釣り堀)</p> <p>地域ブランド化(いちご、玉ねぎ、メロン、佐賀牛等)</p> <p>観光・交流によるまちづくり</p>	<p>シビルミニマムの充足</p> <p>交流機能・情報基盤施設整備</p>	<p>ものづくりグループ支援</p> <p>組織主体形成</p> <p>拠点機能整備</p> <p>顔のみえるまちづくり・ものづくりグループ</p>	<p>商業集積整備に関する研究会・計画立案・建設準備会発足</p>	
平成17年～		<p>行政運営に対する不安</p> <p>計画策定システム改質</p> <p>住民参加型まちづくり</p> <p>計画行政の推進</p> <p>機構改革</p>	<p>起業者出現(海の釣り堀)</p> <p>地域ブランド化(いちご、玉ねぎ、メロン、佐賀牛等)</p> <p>観光・交流によるまちづくり</p>	<p>シビルミニマムの充足</p> <p>交流機能・情報基盤施設整備</p>	<p>ものづくりグループ支援</p> <p>組織主体形成</p> <p>拠点機能整備</p> <p>顔のみえるまちづくり・ものづくりグループ</p>	<p>商業集積整備に関する研究会・計画立案・建設準備会発足</p>	<p>商工会・観光物産協会広域合併</p> <p>玄海町地域振興会</p>	
特徴		○行政主導型から住民と連携したまちづくり	○基盤整備、生産振興策、九電地域共生などの有機的連携	○社会開発施策の定着	○顔のみえる組織化	○広域化への組織的な対応		

(注) 図中□は展開のモメント



検証 分野別相互関連と主要な展開モメントー美浜町

年次	歴代町長	発電所建設スケジュール	検証の視座				特徴	
			社会・生活環境の多様化	産業の構造的な高次化	広域的な交流・連携の展開	中長期的総合計画活動		多様な住民グループ活動
昭和35年	綿田（捨）	(37)原発誘致決議 #1.42年着工 #2.43年着工 45年運開 #3.47年着工 47年運開 51年運開	全町的生活・福祉・医療機能の継続的整備	丹生区を中心とした地域関連事業の推進	国体漕艇会場同基盤整備	美浜町振興計画策定	シビルミニマムの確保	
昭和40年			美浜町財政の好転	一次産業基盤の整備促進	石門郷との姉妹都市提携			美浜町振興計画策定
昭和45年	原田・平野		住環境整備テンポ加速	工業基盤整備	ポートを町技とする 第1回 美浜・五木ひろし町民レガッタ マラソン	第2次総計策定	基軸産業（農漁業）の基盤整備	
昭和50年			建替・再編	生産システム複合化	ハートフル朝市の開催	町キャッチフレーズ選定 「おいしい自然はあとふる美浜」		第2次総計策定
昭和55年	綿田（光）		安全・安心機能整備	集落営農担い手育成	交流人口の増加	第3次総計策定	交流活動の推進と知名度の向上	
昭和60年			三方五湖ラムサール条約登録	企業誘致条例、同対策室設置	若狭美浜はあとふる体験受入開始 同推進協議会設立	山口町政誕生 美浜町観光ビジョン策定		第3次総計策定
平成2年	山口				NPO法人はあとふる美浜ネットワーク設立	美浜町名物料理検討委員会発足	機能相互の連携・融合 人材育成	
平成7年						夢ネットワーク美浜設立		「へしこの町」商標登録
平成12年						夢ネットワーク美浜設立	エンパワメントの向上 地域ブランドの形成	
平成16年						「へしこの町」商標登録		計画活動参画、ファシリテーター、コーディネーター
平成21年						解散		
特徴			住民のもつ新たな価値規範の創出	基軸（一次産業）産業の再編	・美浜町の個性化づくり ・交流型産業経済の創出	合意形成と対話プロセスの改革	・エンパワメントの向上 ・地域ブランドの形成	・地方自治の安定性 ・継続的政策展開

(注) 図中の □ は展開のモメント

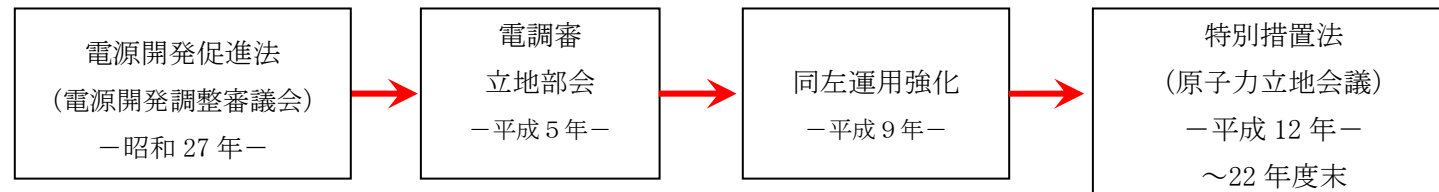
## 4. 原子力施設の立地「地域振興」に結びつけるために

### 1) 相当な新增設が必要—総合エネルギー調査会・原子力部会

- 15基 (電力供給計画) + 9基 (2020年) + 6基 (2030年) = 35基 (6,800万Km)
- 美浜発電所1号機運転開始1970年(昭和45年)から40年として、平均リードタイム約19年。現実的?
- 地方分権、地域主権が社会の潮流だが。地域振興問題の国の関与は?

### 2) 「地域振興」に結びつけるために

#### ① 国は



手続論の流れ

- 特措法のあり方 (延長を前提・・・単純延長ではないが)
  - これまでのフォローアップの実施
    - 電調審電源立地部会「審議会地域振興計画フォローアップ調査」平成12年12月(経企庁電源開発官室)
  - 単純延長ではない・・・検討すべき点
    - ・ 計画対象地域
      - 「影響圏域」→「実態圏域」
    - ・ 計画スキーム・・・「立地円滑化」から「地域振興」のあり方を軸としたスキームへ
    - ・ プロジェクト主義の限界
      - 「うすい地域振興の実感」←複合的・相乗的効用の発現
  - ・ 原子力立地会議のあり方 (手続論的)
    - 個別プロジェクトに係る国の支援から計画のもつ論理体系、あるべき地域像に対する論議を
    - 論議体制の再構成

#### ② 関係自治体は

##### a. 関係道府県

- ・ 「○○○原子力発電施設等立地地域の振興に関する計画」立案策定体制の検討
- ・ 意志決定・制度設計等のメカニズム・プロセスにおける透明性・公平性の論理や発言・論議できる余地の工夫

- ・ ①②-b、③④の調整・推進役

##### b. 立地自治体

- ・ 知的社会基盤の醸成
  - 「ものとかね」といった社会基盤に対して、前述した織物をつくる諸活動が織りなすダイナミズムにより形成されるところの地域自律化に向けた継続的革新能力や社会システム(知的社会基盤)を形成・醸成するため、下記に示す如き諸活動が必要かつ重要となる。かかる面における施策的手立てが期待される。
    - ◇ 合意形成と対話プロセスの構築
    - ◇ 多様な主体の相互作用の強化
    - ◇ 共同作業の場づくり
    - ◇ 中間集団の組織化
    - ◇ 経済的効率主義の克服のツールの実践
- ・ 生業(既存基軸産業)の再生・・・最も“実感が得られる分野”

#### ③ 施設者は

- a. 発電所の「地元会社化」の可能性吟味
- b. 不断の地域社会活動
  - 専門家・専門用語の理解、促進(信頼関係=合意)
- c. 今日の参宿所の再現

#### ④ 新たな主体(知恵袋)の形成(立地地域の主体性を前提として)

##### 【機能】

- ◇ プロジェクト関係者間のオーガナイズ機能
- ◇ 関係機関とのネットワーク機能
- ◇ 住民ニーズのキメ細かな把握機能
- ◇ 地域住民の参加、協力を求めるための住民理解醸成機関
- ◇ 内発的新産業の創出に対する出資等の資金供給機能
- ◇ 人材支援機能等

##### 【対象地域】

実態的圏域構成市町村

##### 【原資】

施設者、県、立地・周辺自治体、関係諸団体、国

##### 【類似事例】

(財)むつ小川原産業活性化センター、旧産炭地域5経済生活圏で実施、北鹿児島電源立地地域総合研究所(仮称)等